

# あの日あのとき ①

このコーナーは、東日本大震災が発生した当時の様子などを皆さんにお聞きして連載していくコーナーです。今回は、南三陸災害FM（愛称：FMみなさん）のスタッフとして活躍されている工藤浩典さんに話を聞きました。



工藤 浩典さん  
(☎十日町)

## 震災当時

私は、石巻市で仕事をしており、地震が発生したときは車を運転している最中でした。突然大きな揺れを感じ、急いで車を止めました。今までにないくらい大きな揺れだったので、実家の母親が心配になりましたが、すぐに南三陸町へ向かいましたが、戸倉の荒町から向こうへは立ち入りできないとのこと、車の中で一晩過ごし、翌日に歩いて実家がある十日町へ行きました。途中、言葉では言い表せないほどの無残な光景が目に入り、現実を受け止めるのに時間がかかりました。また、実家の母親の安否についても、この状況から半分はあきらめていたように思います。実家が建っていたところには何も残っていませんでしたが、何力所かの避難所を訪ね、志津川中学校で母親と再会することができました。



## 震災後の生活

震災後は、志津川中学校で避難生活を送りました。救援物資の搬入や避難所の雑用のほか、在宅避難者へ物資を届けたりして毎日を通し、気がつくとい日暮れていました。昼間は夢中で体を動かしていたのであまり感じませんでしたが、夜になると気温が下がり、体育館のカーテンなどにくるまって寒さをしのいでいました。食べ物や着る物も不足していましたが、あの寒さだけは今でも忘れられません。まもなく、自衛隊の方がかけつけてくれ、炊き出しや道路の補修など、私たちのために一生懸命働いてくれたおかげで、安心して生活することができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

## これからの私

今後のことは、考えなくてはならないことがいっぱいありすぎるので、あまり考えないようにしています。国や行政による復興の方向性が決まってからじっくり考えたいと思います。また、今は南三陸町のFM放送の仕事させていただいているので、町民の皆さんの声をたくさん聞いて、それを役場の人に伝えるパイプ役としても頑張っていきたいと思うし、南三陸町ならではのFM局として、地域に密着した情報を伝えていきたいと思っています。

これまで連載してきた「水中楽園」については、しばらくの間休載いたします。

## 編集後記

▶ 8月5日(金)、陸上自衛隊第6師団第22普通科連隊の撤収セレモニーにおいて、連隊長の國友昭さんがこう言いました。「町民の皆さんが心の底からの笑顔を取り戻せるよう頑張ってください。」▶ 東日本大震災では、あまりにも多くの尊い命が失われました。また、行方のしれない方々の消息も未だ判明しておらず、ご家族や関係者の悲しみは、いかばかりかと思えます。そんな中、広報紙を通常どおりに戻すことについては、多少なりともためらいがありました。海の写真を掲載するのは…。笑顔の写真を掲載するのは…。でも、南三陸町が復興するためには、海も笑顔も必要不可欠なものです。活字だけで情報を詰め込むよりも、広報紙を読んでもくれた人が「ほっ」と安心して発行していきたいと思えます。そして、國友連隊長が言った「心の底からの笑顔」を皆さんが取り戻せるよう、少しでもお手伝いできれば幸いです。 担当 加藤

## わが家のアイドル



あやみちゃん  
勝倉 綺海

(☎本浜)

平成22年11月29日生まれ

パパ 秀一さん

ママ みなさん

### おうちの方から一言

健康で明るく元気に育ってほしいです。